

令和4年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	若手世代の集落営農法人への従事可能性と求める条件		
[要約] 集落内の若手世代にも集落営農法人への従事意向を持つ人が一定数いる可能性が示唆され、人材確保に当たっては、従事意向に沿ったアプローチが求められる。					
キーワード	集落営農	経営継承	人材確保	企画管理部 農業経営研究室	

1 背景とねらい

集落営農法人(以下「集落法人」という。)の現構成員の子等(20～50代)に対して実施したアンケート調査結果から、従事に対する考え方を把握する。

2 成果の内容

- (1) アンケートの対象は、県内集落法人の約8%が存する県南地域の2法人の現構成員の子等(20～50代)である。どちらも役員の年齢層が高く、人材の確保・育成上の課題を抱えるなど、県内においては典型的な運営形態の農事組合法人である(表1)。アンケートの回答者は、農業従事は手伝い程度又は全くない、従事程度の低い人が約8割を占めている(表2)。
- (2) 条件が合う場合の集落法人の従事について、約半数が従事の可能性を示している(表3)。具体的には、現在の仕事を辞めて専業で働いてもよい(以下「専業でもよい」)が35%、都合のよい時に働いてもよい(以下「都合のよい時」)が65%である。
- (3) 回答者のうち、農業への興味・関心がある人は全体の37%、地域の農業・農地の維持が必要と考えている人は全体の76%である(表4)。農業への興味・関心がある人はない人よりも、地域の農業・農地の維持が必要という人は不必要という人よりも、集落法人への従事の可能性が有意に高い(表5)。また、現在の仕事に満足していない人が、専業でもよいと回答する傾向がある(表6)。
- (4) 従事の際に重要視する内容は、給与・待遇が一定以上あることが回答者全体で最も高いが、専業でもよいとの人は経営が安定していることを、都合のよい時との人は地域の人との繋がりが出来ることを重要視する傾向がある(表7)。また、従事条件は、専業でもよいとの人は年収400万円以上、年間従事のフルタイムとの回答が高く、都合のよい時との人は求める年収条件にバラツキがあり、農繁期や休日に数時間程度従事との回答が高い(表8)。
- (5) 以上から、集落内にも集落法人への従事意向を持つ人が一定数いる可能性が示唆され、特に農業・農地維持への関心が高く、現在の仕事に満足していない人が候補者のターゲットになりうると考えられる。また、専業での従事希望者には年間雇用で他産業並の給与を、都合のよい時の従事希望者には柔軟な勤務体制で地域の人との接点ができることを訴求すべきである。
- (6) 人材を確保するためには、まずは、必要とする人材像は中核を担う人材か補助的な作業をする人材か等の人材像を明確にする必要がある。その上で、各人材像のニーズに対応する賃金を継続的に支払うことができるよう、収益性の向上・経営の安定化や受け入れ体制等の条件を整えると共に、地域の若手世代の就業状況や農業・農地の維持の関心の度合い等を把握するなど候補者を探索し、集落法人への従事に向けたアプローチを進めることが重要であると考えられる。

3 成果活用上の留意事項

アンケート結果の詳細は、報告書(別冊)を参照のこと。

4 成果の活用方法

- (1) 適用地帯又は対象者等 県内全域 農業普及員、JA営農指導員、農業関係機関・行政機関の担当者等
- (2) 期待する活用効果 県内の集落営農組織への人材確保・育成支援等の参考となる

5 当該事項に係る試験研究課題

(R3-1) 集落営農組織の実態・課題を踏まえた経営維持・発展方向の提示

6 研究担当者

藤澤真澄、前山薫

7 参考資料・文献

- (1) 令和4年度岩手県農研試験研究成果書「集落営農法人の人材確保・育成における実態と課題」
- (2) 藤澤真澄、前山薫(2022)「集落営農法人における人材確保・育成上の課題と対応方向, 東北農業研究」

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 アンケート対象法人の経営概要

	設立年	構成員数	経営面積	栽培作物	収入(万円)	作業方法	役員の年齢層	課題
(農)A	2007	37	50ha	米	4,524	主はOP	60歳以上100%	人材確保、仕事の確保、利益が低い
(農)B	2016	79	156ha	米、大豆他	14,126	枝番管理	60歳以上80%	技術不足、仕事の確保、人材の確保

注1)作業方法の「主はOP」は主たる機械作業等はオペレーターが行いその他草刈り水管理等の作業は構成員で実施する方法、「枝番管理」は転作作物等の共同作業以外の作業は各構成員で実施する方法のこと

注2)課題は、集落営農法人へのアンケート調査における経営上の課題上位3つ

表2 アンケート回答者の属性(n=46)

	法人		年齢		性別		農業従事者の程度	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
(農)A	20	(43%)	20代	4 (9%)	男	36 (78%)	農業を主な仕事としている	2 (4%)
(農)B	26	(57%)	30代	14 (30%)	女	10 (22%)	他産業従事しながら農業をしている	7 (15%)
			40代	12 (26%)			手伝い程度を行っている	27 (59%)
			50代	16 (35%)			全くない	10 (22%)

表3 集落法人への従事の可能性 (n=42)

	人	(%)
従事の可能性有	20	(48%)
うち専業でもよい	7	(35%)
うち都合の良い時	13	(65%)
従事の可能性無	22	(52%)
うち働けない又は働きたくない	6	(27%)
うち分からない、未定である	16	(73%)

注) その他回答除く

表4 興味・関心、農地の維持に対する考え

農業の興味・関心 (n=46)		地域の農業・農地の維持 (n=40)		
	人	(%)	人	(%)
ある	17	(37%)	必要	31 (76%)
どちらでもない	17	(37%)	うち自分が守る	9 (29%)
ない	12	(26%)	うち出来る人に守ってもらいたい	22 (71%)
			不必要	9 (23%)
			うち荒れても仕方がない	5 (56%)
			うち守らなくてもよい(重荷である)	4 (44%)

注) その他回答除く

表5 農業の興味・関心、地域の農業農地の維持と従事の可能性の関係

	農業の興味・関心**		地域の農業・農地の維持**	
	ある	なし	必要	不必要
従事の可能性有 (n=12)	10 (83%)	2 (17%)	(n=19) 18 (95%)	1 (5%)
従事の可能性無 (n=14)	6 (43%)	8 (57%)	(n=18) 11 (61%)	7 (39%)
全体 (n=26)	16 (62%)	10 (38%)	(n=37) 29 (78%)	8 (22%)

注1) 農業の興味・関心の回答のうちどちらでもない除く

注2)**は、農業の興味・関心はX²検定、地域の農業・農地の維持はFisherの正確確率検定にて5%水準で有意差あり。検定は統計的検定学習支援用ウェブアプリケーションBuMoc使用(表5~8も同様にBuMoc使用のため、以後の注釈は省略)

表6 農業以外の仕事の満足度と従事の意向 (n=35)

	満足している (n=10)			ふつう (n=20)			満足していない (n=5)			
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
専業でもよい (n=5)	0	(0%)	3	(60%)	2	(40%)				
上記以外 (n=30)	10	(33%)	17	(57%)	3	(10%)				

注1) 上記以外は、表3のうちの都合のよい時、働けない又は働きたくない、分からない・未定であるの回答者

注2) 専業でもよいとそれ以外の間に、Fisherの正確確率検定にて5%水準で満足度(ふつう除く)に有意差あり

表7 従事の際に重要視する内容 (上位3つまで選択)

	給料・待遇が一定以上		地域の人の繋がり**		良好な人間関係		年間を通じた仕事		仕事を教えてもらえる		経営が安定している*		柔軟な働き方が出来る	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
専業でもよい (n=7)	6	(86%)	0	(0%)	0	(0%)	4	(57%)	1	(14%)	6	(86%)	4	(57%)
都合の良い時 (n=13)	10	(77%)	8	(62%)	2	(15%)	4	(31%)	3	(23%)	5	(38%)	7	(54%)
全体 (n=43)	32	(74%)	16	(37%)	5	(12%)	14	(33%)	10	(23%)	20	(47%)	16	(37%)

注)**、*は、Fisherの正確確率検定にてそれぞれ5%水準、10%水準で有意差あり

表8 従事の際の条件

	年間収入***		従事期間**				従事時間**					
	400万円未満	400万円以上	年間	農繁期や休日のみ	フルタイム	数時間程度						
専業でもよい (n=7)	0	(0%)	7	(100%)	(n=4) 4	(100%)	0	(0%)	(n=6) 6	(100%)	0	(0%)
都合の良い時 (n=6)	5	(83%)	1	(17%)	(n=13) 4	(31%)	9	(69%)	(n=10) 4	(40%)	6	(60%)
全体 (n=24)	10	(42%)	14	(58%)	(n=34) 12	(35%)	22	(65%)	(n=32) 13	(40%)	6	(60%)

注)***、**は、Fisherの正確確率検定にてそれぞれ1%水準、5%水準で有意差あり